

東邦学園の高短大連携教育の実施

平 尾 秀 夫

目 次

1. 高短大連携教育の理念
 2. 平成16年度の東邦学園における高短大連携教育
 3. 「コンピュータ活用」の授業の実践
 4. 高短大連携教育の成果と展望
- 附1 「Word2000によるホームページの作り方」

1 高短大連携教育の理念

平成10年3月の文部省令の改正により、高校生が大学で学習した成果について、高校はそれを単位として認めることができるようになった。それ以前にも、専修学校における学習の成果及び知識・技能審査の成果を対象として、高校の単位として認められていたが、単位認定の対象となる学校外における学習の範囲が拡大されたのである。

この省令改正の趣旨は「高等学校の生徒の能力・適正、興味・関心等の多様化の実態を踏まえ、学習の選択幅を拡大するとともに、自ら学ぶ意欲の向上により、生涯にわたる学習の基礎を培う観点から、生徒の学校外における体験的な活動や、自らの在り方・生き方を考えて努力した結果をこれまで以上に評価していくこととし、ボランティア活動、就業体験等に係る学習について、各高等学校の判断により、当該学校の単位として認定できるようにする。」と平成

10年3月31日付の文部省通達は述べている。

この省令の改正を受けて、平成10年度文部省「高等学校教育多様化実践研究委嘱」報告として全国高等学校長協会は、平成10年9月に「高等学校の生徒の学校外における学習の単位認定に関するガイドラインについて」を作成し、次の各場合における単位認定の方式について述べている。(文献1)

- ・大学または高等専門学校における学習
- ・知識及び技能に関する審査で文部省が別に定めるものの合格に係る学習
- ・ボランティア活動その他の継続的に行われる活動に係る学習

さらに中央教育審議会が平成11年11月に「初等中等教育と高等教育との接続の改善」(中間答申)を発表した。(文献2)

この中間答申の第4章「初等中等教育と高等教育との接続の改善のための連携の在り方」第2節で「基本的な考え方」を次のように述べている。

「初等中等教育と高等教育の接続を考えるに当たっては、とかく入学者選抜に焦点が当たりがちである。しかし、入学者選抜の問題だけではなく、カリキュラムや教育方法などを含め、全体の接続を考えていくべきであり、初等中等教育から高等教育までそれぞれが果たすべき役

割を踏まえて、一貫した考え方で改革を進めていくという視点が重要である。

その際、重要なことは、高等学校以下の教育の問題あるいは大学入試の問題といういずれか一面のみから論ずるのでなく、初等中等教育と高等教育がそれぞれ独自の目的や役割を有していることを踏まえつつ、高等学校と大学の両者がいかにしてそれぞれの責任を果たしていくかという観点から検討を行うべきである。その上で、学生が高校教育から大学教育へ円滑に移行できるよう、両者の教育上の連携を拡大するとともに入学者選抜の在り方を改善することが重要である。」

これらの観点を踏まえ、第4章第3節「具体的な教育上の連携方策」で次の5点を提唱している。

- (1) 高等教育を受けるのに十分な能力と意欲を有する高等学校の生徒が大学レベルの教育を履修する機会の拡大方策
- (2) 大学がその求める学生像や教育内容等の情報を的確に周知するための方策
- (3) 高等学校における生徒の能力・適性・意欲・関心等に応じた進路指導や学習指導の充実
- (4) 入学者の履修歴等の多様化に対応して大学教育への円滑な導入を図る工夫
- (5) 高等学校関係者と大学関係者の相互理解の促進

文部省令改正以前は大学が行う講義を高等学校の生徒が聞く機会は、大学の教員が行う講演会か大学の出前講義を聞くことに限定されていた。しかし、省令改正による単位認定などのことが引き金となり、高短大連携教育は次第に活発化してきている。また高短大連携教育は、当初の目的である高校生に大学レベルの教育を履修する機会を与えるだけでなく、高校と大学の相互理解の促進へとつながることも明らかにな

ってきた。

高短大連携教育で大学と高校の教員同士が打ち合わせを重ねることや、大学の教員が高校の生徒に直接講義を行うことにより、高校生の実情を把握することが可能になってきたからである。

2 平成16年度の東邦学園における高短大連携教育

東邦学園の高短大連携教育は、2000年6月に当時の東邦高等学校の新川裕士校長から東邦学園短期大学の丸山恵也学長宛に高校・大学（短大）間の教育分野での連携推進の提案がなされ、東邦高等学校側は高井教頭（現校長）、佐々木先生、小島先生など、東邦学園短期大学側は私（平尾）、長南先生などを検討委員として連携の協議を重ね、2001年から連携教育の実施を開始した。それ以来、東邦高校と東邦学園短期大学・東邦学園大学との連携教育は両校の熱心な取り組みもあって継続して行われてきた。（文献3）

平成16年度連携授業は次のように行うこととした。

- (1) 実施機関：平成16年4月8日(木)～
平成17年1月20日(木)
- (2) 実施時間：木曜日 13:20～15:10
- (3) 開講科目：・情報リテラシー
・コンピュータ活用

「情報リテラシー」は、情報に関するさまざまな面からのアプローチを講義形式で行うものである。また、「コンピュータ活用」は、コンピュータを使って、コンピュータのさまざまな技法を学ぶとともに、その技法を駆使して、何らかの課題をこなしていくことを目的とした。したがって、「情報リテラシー」は大学の普通教室で、「コンピュータ活用」は大学のコンピュータ教室で行うこととした。

(4) クラス編成

経理コースA、経理コースB

経理コースをA,Bの2つのクラスに分割した。そのため、各クラスは20名前後であった。

経理コースAは前期に「コンピュータ活用」を学び、後期に「情報リテラシー」を学ぶ。逆に

経理コースBは前期に「情報リテラシー」を学び、後期に「コンピュータ活用」を学ぶこととした。

これは大学のコンピュータ教室をA,Bの2つのクラスが交代で使用するためのものである。

3 「コンピュータ活用」の授業の実践

(1) 「コンピュータ活用」科目の構成

私は経理コースAの「コンピュータ活用」科目を担当した。高短大連携教育の発足時の検討を行う際に、推進役の一人としての仕事を重ねてきたが、実際に連携教育に従事するのは初めてである。連携教育を行うことは楽しみであると同時に、高校生を満足させる教育を行えるかの不安もあった。

東邦高校の経理コースの学生たちは、ほぼ全員が何らかのクラブ活動を行っている。厳しいクラブ活動をこなしながら、勉学にいそしんで

いる生徒たちである。クラブ活動は、克己心、忍耐力、集中力など若い彼らに貴重な財産を残すと思われる。

私の担当した経理コースAの生徒たちの所属しているクラブは左下のとおりである。

私は、「コンピュータ活用」の科目を2004年前期で教えるにあたって、カリキュラムを次のように構成した。

- (1) 所属しているクラブの紹介 (Word、オートシェイプ使用)
- (2) 自分史① (Word使用)
- (3) 自分史② (Word使用)
- (4) 自分史③ (Word使用)
- (5) ホームページ作成 (Word使用)
- (6) ホームページ作成 (自己紹介 HTML言語使用) ①
- (7) ホームページ作成 (自己紹介 HTML言語使用) ②
- (8) グラフの作成 (Excel使用)
- (9) データベース作成 (Excel使用)
- (10) 所属クラブの紹介 (Power Point使用)
- (11) 私の夢 (Word使用)

所属クラブ	人 員
サッカー	男子 4名
水 泳	男子 1名
	女子 1名
硬式野球	男子 1名
陸 上	女子 1名
ダンス	女子 2名
剣 道	女子 2名
吹 奏 楽	女子 2名
アーチェリー	女子 1名
バレ ー	女子 1名
家 庭 科	女子 1名
写 真	女子 1名

以上のメニューにより、情報操作のツールとして、Word、Excel、HTML言語、Power Pointなどの高度な機能を学ぶことを目的とした。また、これらの機能を学びながら、自己の過去、現在、未来をしっかりと見つめ直し、これからの勉学の向上心に役立つ契機になるように配慮した。

各時間ごとに、手引書を配布し、それを読むことで、その時間に与えられた課題のコンピュータの操作がある程度行っていくことができるようにした。これは、自ら学ぶ姿勢を身につけてもらう意図もあったからである。

第1回

所属しているクラブの紹介

自分のクラブを紹介しよう。

- ・「挿入 (I)」→「図 (P)」→「新しい描画オブジェクト (N)」を選択。
- ・オートシェイプの図を選ぶ。
- ・ワードアートなどを使って、楽しい文を作ろう。

第1回は、ワードを使って所属クラブの紹介を行うことにあてた。東邦高校は、クラブ活動が盛んな高校であり、幸い前述したように経理コースの殆どの生徒がいずれかのクラブに所属していた。授業の最初に比較的抵抗感の少ない、自分の所属しているクラブ紹介をオートシェイプ、ワードアートなどを使って、楽しく表現してもらった。

この第1回の授業の目的は、始めて大学にきて緊張している高校の生徒たちをリラックスさせることと、これからの授業についていけるといふ自信をもってもらうことにあった。

また、教える立場の私にとっては、東邦高校で使っている文章作成ソフトは一太郎であり、東邦学園大学の文章作成ソフトはWordであるので、Wordをどれだけ使いこなせるのか、またキータッチの速度などを見て、今後の教育方針をたてるための情報収集の時間でもあった。

生徒たちは、Wordを使うのは、はじめてなのに係らず、難なく使いこなし、またキータッチの速度も速く、第2回からの授業になんの差し障りもないことが判明してほっとした。また、なによりも嬉しいことに生徒たちの学業に取り組む姿勢が真摯なこと、知的好奇心も旺盛であることであった。第2回以降の授業が楽しく、充実したものになることを確信した。

第2回～第4回

自分史を書く (3,000字以上)

- ・見出しを作ってみよう。
- ・アルバムを眺めて思い出してみよう。
- ・自分に関する資料を見てみよう。
- ・日記を読み返してみよう。
- ・親と話してみよう。

第2回から第4回までに自分史を書くことにあてた。一太郎を自由に使いこなすことができる生徒たちにとって、パソコンの技法ではWordに習熟するための授業であるが、大学のパソコンに慣れることができること、前期でコンピュータの活用を学ばせながら、生徒が自分自身を考え直す機会にするために重要なステップである。

過去、現在をきちんと踏まえることにより、始めて現実的な将来の夢をもつことができ、その夢に向かって努力することができるからである。自分史の書き方を教えるために、私の18歳くらいまでの思い出を数ページ分サンプルとして作成して、生徒たちに配布し、参考にしてもらった。

まだ、若い生徒には自分を振り返ることは必ずしも快いことではないことも想像される。生徒たちの感想を紹介する。

「自分の生い立ちを書く授業は、ちょっと恥ずかしかったです。昔のことは覚えていないので、家に帰って親に聞きました。その日は家族の中で、昔起こった話など聞くことができ良かったです。」

「私は特にいい人生を生きてきたわけじゃなくて、パソコンに自分史を打つことがいやだった。」

しかし小学校、中学校時代のアルバムの写真を自分史の中に貼りつけた生徒も居て、人生を

振りかえる良い機会になったと思う。結果として生徒たちの作成した自分史には素晴らしい作品が多かった。東邦高校の生徒たちの能力は高いことが実証された。

第5回

③ホームページをWordで作成してみよう。

第6回～第7回

④ホームページをHTML言語で作成してみよう。

ホームページを作成して、自己紹介をすることを試みた。

ホームページは通常、ホームページ作成ソフトを使うか、EditorでHTML言語を使って作成するのが通常である。私自身は、ホームページ作成ソフトで概略を作成し、HTML言語で細かな体裁を整えている。

しかしながら、大学のコンピュータには、ホームページ作成ソフトはインストールされておらず、また仮にインストールされていても特定のソフトの使用方法をマスターするには時間がかかり、また将来そのソフトを生徒達が使用するかどうか不確定であるので、特定のホームページソフトを使用することはあまり意味はない。

よく知られていないが、Wordには、簡単なホームページ作成機能がある。この機能は簡単であるため、短時間でマスターできる。このホームページ作成機能を使って自己紹介のページを作る練習を行った。附1に示す資料を生徒に渡して、この資料を理解したのち自己紹介のホームページを作成してもらった。このホームページでフレームが2つに別れ、左側にメニュー、右側のフレームは、左のフレームのメニューの1つをクリックすると対応するページが現れるようにした。ホームページを作って自己紹介を行うということは、生徒たちには大きな喜びであったと思う。

このホームページを作る喜びを味うステップを経て、やや面倒なHTML言語を使うホームページ作りをEditorで行った。HTML言語を使って、ホームページを作成するには、無味乾燥なHTML言語の文法をある程度、理解しなければならないが、この困難も乗り越えることができた。

生徒達の感想

「ホームページを作ったので超感動した、…」

「一番感動したのは、ホームページをすることです。高校でホームページを作ることはないので本当に感動しました。」

第8回

グラフの作成 (Excel使用)

第9回

データベース作成 (Excel使用)

この授業の学習の目的が「コンピュータ活用」ということなので、いささか「自分を見つめ直す」という路線からははずれるもののExcelの活用の授業を2回行った。

生徒たちには、Excelの操作は既知のことであつたので、グラフの作成を楽しみながら課題を行うことができた。

データベース作成と管理は、データベース作成・管理ソフトであるAccessを使わなくても表計算ソフトであるExcelである程度のデータベースが作成可能である。そこでExcelを用いてデータベースの作成と管理を行った。この授業は生徒たちにデータベースの基本構造と応用を理解してもらうのに役立ったと思う。

第10回

所属クラブの紹介 (Power Point使用)

Power Pointは、人に説明する際にコンピュータを使用可能な環境にあれば、強力なツールである。しかし、Power Pointを学ぶにはそれほど時間は必要としない。Power Pointの使いかたを示す資料を渡し、最初に私が作成した地球温暖化の説明をそっくり同じように作成してもらった。Power Pointの使用法を丹念に読むよりは、まずPower Pointで作成された既成のものをなぞって作成していきみる方が技術の習得の近道だからである。

Power Pointの大凡を理解してもらったところで、生徒たちが属しているクラブの紹介を作成してもらった。クラブの紹介は、最初の頃、Wordを使って簡単に行ったが、今回はPower Pointの音声や文字の現れ方の工夫するなどの色々な機能を駆使して、より詳細な説明資料を作成することを目的とした。

生徒たちがPower Pointで作成した所属クラブの紹介の共通点は次のようである。

- (1) 所属クラブを愛していること。
- (2) 所属クラブの監督、顧問を心から敬愛していること。
- (3) かなりの猛練習を必要と理解し、実践していること。
- (4) クラブの実績をあげることに夢を持っていること。

などであり、クラブ活動を通して、立派な人間形成が行われていることが伺われた。例としていくつかの部活動の説明の一部をあげてみたい。

・東邦硬式野球部

練習・試合

午後4時から午後8時まで

毎週月曜日は休み

土曜、日曜日は試合

モットー

楽しく野球をしよう。

目標

甲子園優勝！

・バレー部

試合

夏に大きな試合があります。

それに向けて頑張ります。

つらくても負けません。

頑張りましょう。

練習のこと

基本的に体育館です。

グラウンドを走る。

円じんパス

腹筋・筋肉トレーニング

サーブ練習

先生について

先生は明るく、やさしい先生です。

みんなを引っ張ってくれます。

ときにはきびしいけれど、頑張ります。

第11回

私の夢 (Word使用)

この授業の目的は「コンピュータ活用」であるが、今1つの私が配慮した目的は、生徒たちが「自分を正面から見つめ直すこと」である。過去、現在、未来をしっかりと見据えて、これからの人生をしっかりと生きてもらうことにあった。

その仕上げとして「私の夢」を2,000字以上という限定で書いてもらった。私は、色々な機会に「私の夢」を学生たちに書かせることが多い。しかし、今回は過去、現在をしっかりと見据えた後であったからか、「きちんとした将来像」を生徒たちが描き、私を驚かせた。

生徒たちの大事にしている夢は、夢としてそっとしてあげたいので、夢を描いた文の一部分

をできるだけ抽象化して紹介したい。

「(前略)僕は部活で毎日、日暮れまで練習しているのです、1分、1秒を大事にして勉強しています。大事な事は良い大学に入ることです。〇〇〇になりたいという夢を達成するには、まだまだ努力が必要です。そして僕が〇〇〇になれたら、今まで苦勞をかけた両親に恩返しをしたいのです。(後略)」

「私の小さい頃の夢は、〇〇になることでした。できれば××で働きたいという夢をもっていました。でも、そのためにはいっぱい勉強しなければなりません。しかし、私は〇、〇などは不得意で、半ばあきらめていました。でも高校の先生の〇の授業でまた、私の夢が膨らんできました。先生はビデオを見せたり、新聞の切り抜きをコピーして授業を行ってくれました。これから私は、勉強を頑張って、将来自分が好きなお仕事をできるように努力していきたい。」

生徒たちの夢は、具体的で夢に向かってどのように努力するかを記述してあった。これは素晴らしいことだと思っています。夢に向かって努力していくプロセスが彼らの人間を一回りもふた回りも大きくするに違いない。

4. 高短大連携教育の成果と展望

この科目の本来の目的は課題研究であるので、授業の運営の仕方は、その日の課題に必要な資料を生徒たちに渡し、資料の説明は最小限にして、自分たちの力で課題を解決していくようにした。

生徒たちは、私に質問するときは「教授！」と呼ぶので、いささか面映い面もあったが、生徒たちが大学の教員から学んでいるという実感をつかむために必要な作法かもしれないということそのまま、その呼称で呼ばれていた。

高短大連携教育には、2つの面があると思う。1つには生徒たちに与える影響である。

・自ら学ぶことを身につける。

最初に、文部省の省令改正の趣旨で述べたように、高短大連携教育の目的は「自ら学ぶ意欲の向上により、生涯にわたる学習の基礎を培う観点から、…自らの在り方・生き方を考えて努力した結果をこれまで以上に評価していくこととし」などである。

この趣旨に合うように、私の授業の構成を色々工夫して行ったことは既に述べた。生徒たちもできるだけ自主的に学ぶ姿勢で授業を楽しんでくれたと思う。

・知的好奇心を刺激。

高校の教科から離れて、大学の教員から講義を受けることにより、知的好奇心が刺激され、学習への意欲が強化されると思う。

・学問を学ぶことは楽しいと理解すること。

学問を学ぶということは、本来暗記などでなく、自己の好奇心などから新しいことを次々に学んでいくことであろう。高校本来の授業から離れて、大学の授業を受けるということは学問を学ぶ楽しさを理解するきっかけになると思う。

・大学の雰囲気を楽しんでもらう。

大学の図書館、コンピュータールームなど高校とは又、異なった雰囲気を味わい、大学入学への意欲をかきたてることができたのではないかと考えている。

いま1つは、教師すなわち私に与えた影響である。

・若者の感性を理解する。

高校生と大学生とは僅か数年の年齢の違いであるが、子供から大人への変換期での数年の差は大きい。高校生の純粋さ、若い感性に触れることは私自身大変勉強になったと思う。若者の無限の可能性に触れた感じがして、教育者としての喜びも感じることもできた。

・高校生の知的レベルの理解

自分で想像していた18歳像よりも、今の18歳の高校生の若者の知的レベル、集中力、物事を達成する意欲などのレベルが高いことを発見したことは喜びだった。大学の教員が高校生を教えることにより、高校生に対する認識を新たにできることは大きい。

・教育法の反省

若い高校生には、丹念に親切に教えると、そのまま生徒たちの理解度に直結する。教えることとは何かの原点に私が帰ることができたのは生徒たちのお陰と感謝している。大学生への教え方に悩んでいる教師に是非、高校生に教える体験をすることをすすめたい。

生徒たちの授業に対する感想を紹介する。

「この授業では将来必ず役にたちそうなことばかりやらせてもらえてすごくうれしかったです。もちろん、面倒くさいこともあったけれどあきらめないで自分のためになると思いやっていました。先生も親切で面白く楽しく集中して授業を受けることができました。先生に教えていただいたことを将来活かしていき頑張っていこうと思いました。短い間でしたが丁寧なご指導ありがとうございました。」

「授業は、最初の方は、何をやっていいのか分からず、戸惑ってばかりのものでした。私はあまり、自分ひとりの力で物事をやり抜くということを、いままでやってこなかったからだと思います。だから、この授業で、そういう「一人でやる」という力がついたのではと感謝しています。すごく充実した時間でした。先生も、とても優しく、楽しい先生で大好きです。」

「いつも先生に聞いちゃったけど、自分ひとりでできたときの達成感がすごくありました。」

もっと先生に色々教えてもらいたかった。私たちのわがままも聞いてくれて本当に有難うございました。」

「なんか面倒なことも色々やったけど教授の授業は本当に楽しかったです。パソコンは家でもやっていてすごく好きだったので、パソコンを使った授業はとても好きです。」

その日に授業でやったことは、結構家に帰ってからお母さんと一緒にプリントを見ながらやるが多かったです。

大学にきて教授の授業を受けているときは断然楽しいし、やればちゃんと学べるって感じですよ。大学に来ることは今までなかったし、普通科や商業科でも経理コースじゃなくて情報コースだったら、こうやって教授の授業を受けることはなかったと思います。教授が大学にいてということも私は知らなかった…。

経理コースに入って本当に良かったと思いました。2学期から教授に会えないのはとても淋しいです…。

本当にありがとうございました。」

高短大連携教育で高校生に始めて教えて貴重な経験を得ることができた。高短大連携教育をここ数年実施してきたことにより高校と大学との接点が入試でのみという今までのあり方から、東邦学園における高校と大学（短大）の関与は大きく前進することができたと思う。高校と大学が連携教育のみでなく、色々な面での接点をつくれれば、お互いに学ぶことが多いのではと思う。

今後の高短大連携教育が更に発展することを期待したい。

附1 「Word2000によるホームページの作り方」

Wordによるホームページ作成は生徒たちに好評であったので、生徒たちに配布した資料をここに添付する。

index.htm

自動的に表示されるページです。

menu.htm

メニューのページです。フレームの左側を構成します。

top.htm

フレームの右側の最初のページです。

place.htm

自分の住んでいるところのページです。

me.htm

自己紹介のページです。

taste.htm

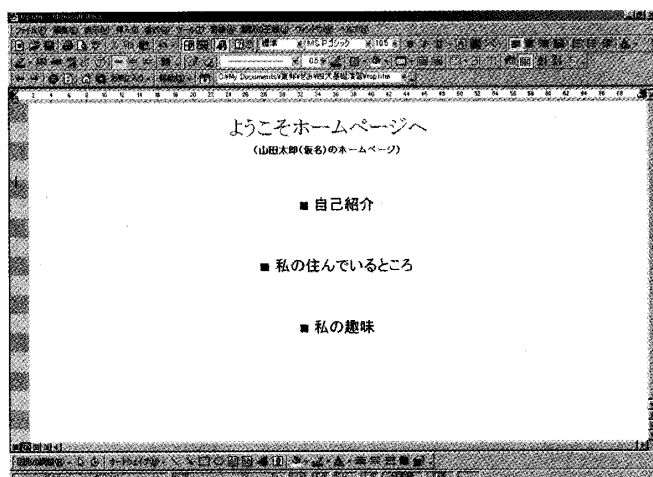
自分の好きなことのページです。

の6つのページでホームページを構成します。

1) top.htmの作り方

Wordを起動して、「ファイル」→「新規作成」→「標準」のタブで「WEBページ」をクリックして、「OK」ボタンを押します。

「書式」→「テーマ」で【テーマの選択】で自分の好きなテーマを選んで、「OK」ボタンを押すと、背景がセットされます。



左下の「ようこそHome Pageへ」は「スタイル」を「見出し1」にして作成します。

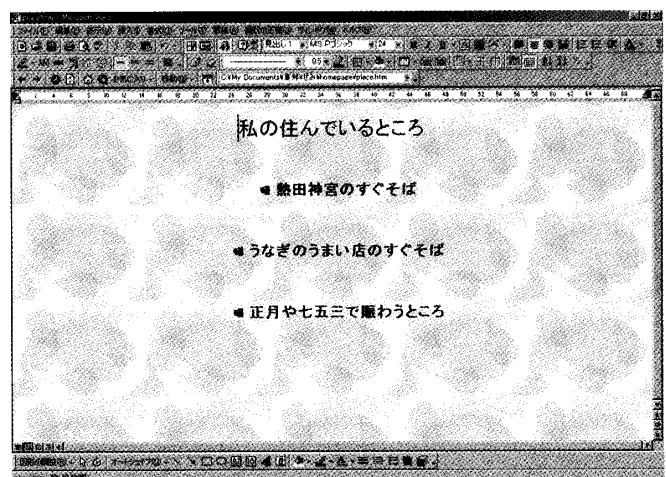
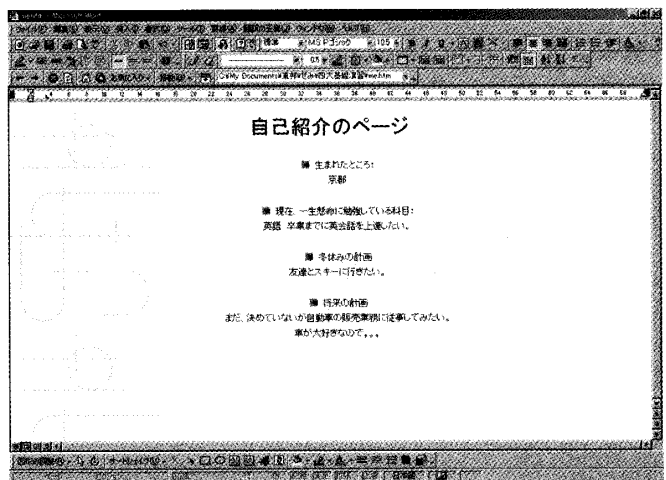
次の行に「(山田太郎(自分の名前)のホームページ)」と入力します。

「自己紹介、私の住んでいるところ、私の趣味」は行を変えて、18ポイントで作成し、3行を選択し「箇条書き」のボタンを押すと、各行の頭に記号が付きまます。そのあと、「中央揃え」のボタンを押すと図のように中央に位置します。このファイルをtop.htmとして保存します。

2) me.htm、place.htmの作り方

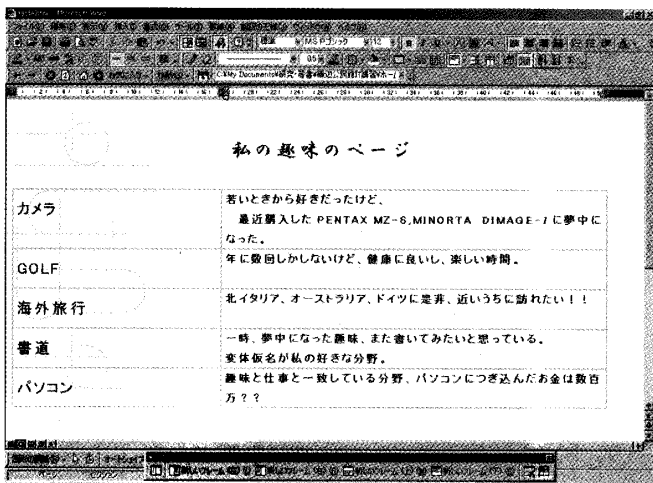
次に自己紹介のページを作成します。前のtop.htmと同様に下のように作成します。

内容は自分にあわせて変えてください。Place.htmも図のように同様に作成します。



3) taste.htmの作り方

趣味のページです。いままでと同様に作成できますが、表を利用してみましょう。

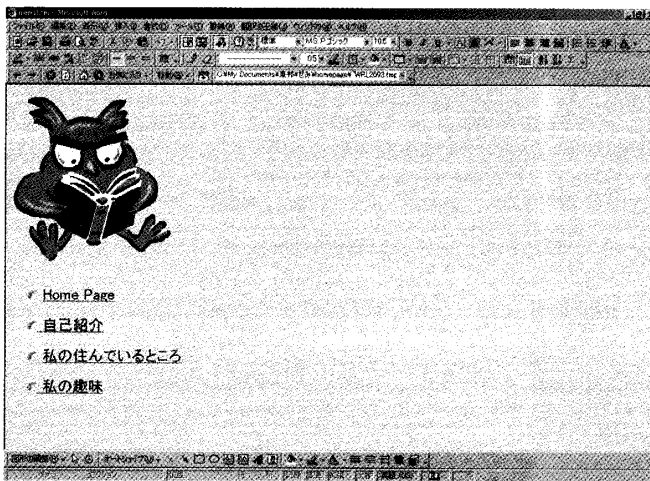


表を入れるところをクリックして、「罫線」→「挿入」→「表」として、表の列数と行数を指定して「オートフォーマット」で好きなフォーマットを指定して「OK」ボタンを押す。

4) menu.htmの作成

こうして4つのページを作成したら、menu.htmを下図のように作成します。

図は「挿入」→「図」→「クリップアート」で好きな図を選びます。

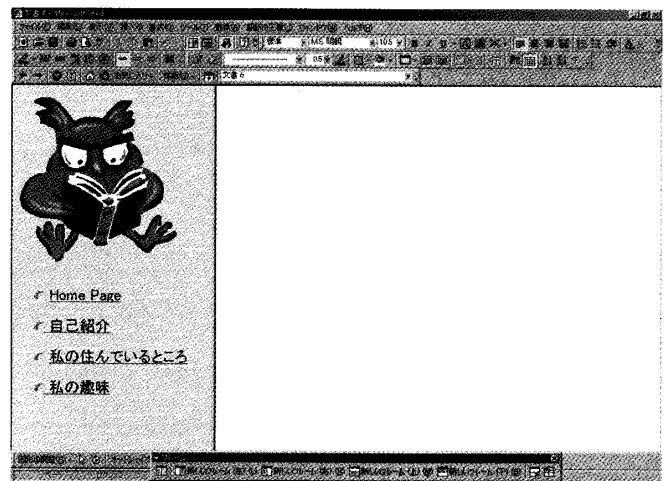


5) フレームの作成

menu.htmを開いた状態で、「挿入」→「フレーム」→「新しいフレーム」をクリックする。

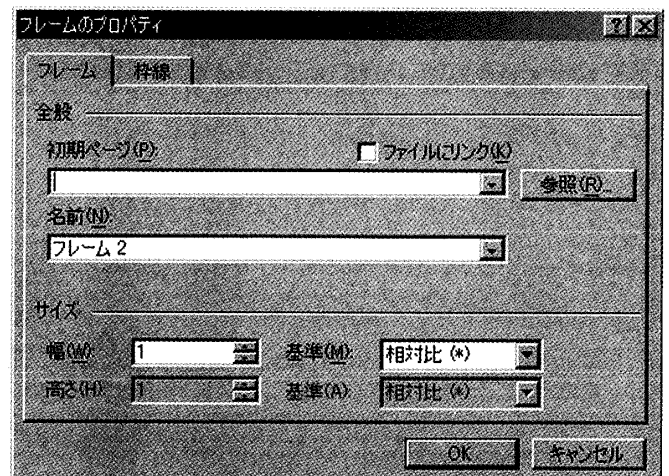
そこで「新しいフレーム (右)」をクリックします。すると下の図のようにフレームで画面が2つに分かれます。

ここで「ファイル」→「名前を付けて保存」→「index.htm」として保存します。

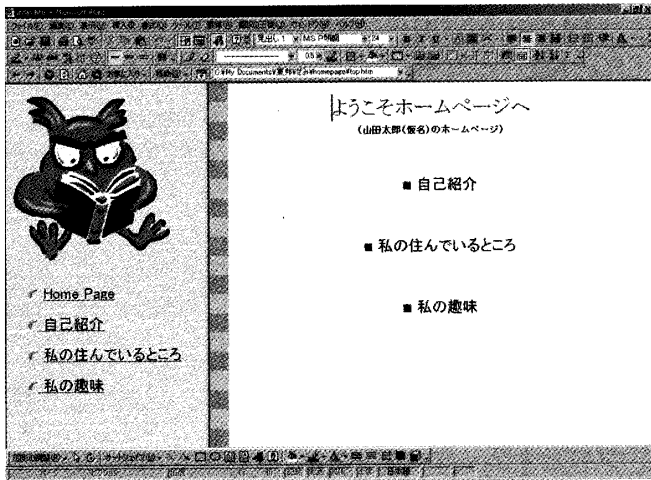


フレームを分ける線はマウスで真ん中から左に動かします。

右側のフレームをクリックして、「書式」→「フレーム」→「フレームのプロパティ」をクリックし、図の「参照」をクリックし、「top.htm」を選択し、「OK」ボタンを押します。

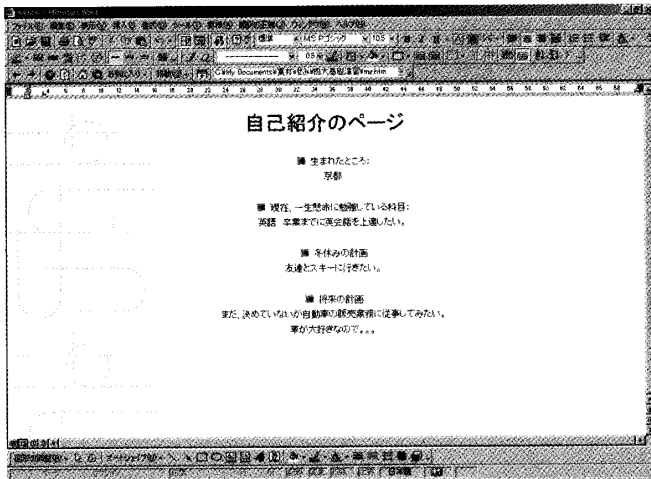


「初期のページ」を「参照」からtop.htmを選びます。そこで下の図のようになります。



左側のフレームの目次と各ページとのリンクをつくりましょう。

「Home Page」の文字を選択し、「挿入」→「ハイパーリンク」を選択すると、下の図が現われる。左下のフレーム2をクリックしてフレーム2にしてから「参照先」ファイルでtop.htmを選択して「OK」ボタンを押す。



同様にして、自己紹介にはme.htmをリンクし、同様に、「私の住んでいるところ」にplace.htmをリンクし、「私の趣味」にtaste.htmをリンクします。リンクはすべてフレーム2にリンクします。

これをindex.htmとして保存します。

これで完成です。ホームページがうまく機能するか、Netscapeかinternet explorerで見てください。

参考文献

1. 「高等学校の生徒の学校外における学習の単位認定に関するガイドラインについて」(平成10年度文部省「高等学校教育多様化実践研究委嘱」報告) 全国高等学校長協会 平成10年9月
2. 「初等中等教育と高等教育との接続の改善」(中間答申) 文部省中央教育審議会 平成11年11月
3. 「東邦学園の高短大連携教育「情報とビジネス」科目を中心に一」 森靖雄 東邦学誌第31巻第2号